

最新版・トキソプラズマに対する生体防御とその破綻の分子機構

演者：山本 雅裕 先生

大阪大学微生物病研究所感染病態分野 教授

2023年2月10日（金）4:00PM-5:00PM

ハイブリッド開催

テレカンファレンスルーム（臨床研究棟2F）

オンライン（Zoom）

※会場の座席数には限りがあり、先着順となります。

対象：教育職員、医学系大学院生、研究者等

事前参加登録

<https://forms.gle/pWEKhGUorBYoCR2D7>



トキソプラズマは免疫不全者や骨髄・臓器移植患者、初感染の妊婦で重篤なトキソプラズマ症を引き起こす病原性原虫である。宿主の細胞に感染してのみ増殖可能な偏性寄生性の単細胞生物であり、寄生した宿主細胞内で「寄生胞」と呼ばれる膜構造体を作り出し、その中で増殖する。それに対して、宿主免疫系は自然免疫系・獲得免疫系・セルオートノマス免疫系が協調し、インターフェロン γ (IFN- γ)を産生して寄生胞を破壊し、トキソプラズマを殺傷する。しかし、高病原性のトキソプラズマの中にはIFN- γ 依存的な宿主免疫系を阻害する免疫抑制機構を持ち、寄生胞に様々なエフェクター分子（病原性因子）を展開する。

本セミナーでは、演者らの研究室で得られたトキソプラズマに対する獲得免疫系に関する新知見（文献1）およびトキソプラズマによる宿主セルオートノマス免疫系抑制機構に関する新知見（文献2）を中心に最新のトキソプラズマの寄生虫免疫学を概説する。

（文献1）Sasai M, et al. J Exp Med. (2021) 218:e20201763.

（文献2）Hashizaki E, et al. mBio. (2023) In press.

世話人 小林 隆志

（医学部感染予防医学講座 教授、グローバル感染症研究センター兼任）

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター総務係（5409）

TEL 097 (586) 5409 E-mail glocal@oita-u.ac.jp

The seminar will be held in Japanese.